

平成30年度 下関商業高等学校（定時制） 学校評価書 校長（藤本 茂）

1 学校教育目標 教育目標・・・①社会人基礎力の育成 ②授業の充実と確かな学力の育成 ③部活動、学校行事等の充実 ④保護者・地域との連携と積極的な情報発信 ⑤安心・安全で快適な教育環境の整備 めざす学校像・・・①ビジネスの基礎力を充実させ、ビジネスへの理解力と実践力を備えた生徒 ②明朗で、人間としての常識とゆたかな人間性及びたくましい体力を備えた生徒 ③常に感謝の気持ちを忘れず、他人を思いやり、誠実で謙虚な生徒 ④変化の激しい時代に自ら主体的・積極的に対応でき、創造性を備えた生徒 ⑤日本の伝統文化を尊重し、グローバルな視野をもった生徒 チャレンジ目標・・・①出席率95%以上 ②進路決定率100%・正規雇用就職率100%、3年間は離職しない進路意識の涵養 ③全商検定3級以上全員取得						
2 現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて） ① 素直な生徒が多く、落ち着いた態度で学校生活を送っているが、やや社会性に欠ける生徒が見受けられる。 ② 授業にはまじめに取り組むが、基礎学力の定着にはさらなる時間を要する。学習意欲のさらなる向上と家庭における学習習慣の確立が求められる。 ③ 将来の進路について見通しが立っていない生徒が多いため、自らの進路について、より主体的に考える姿勢を育む必要がある。						
3 本年度重点を置いてめざす成果・特色、取り組むべき課題 ① 4年間を見通したキャリア教育の推進 ② 保護者・地域との連携強化と積極的な情報発信 ③ 社会人基礎力の定着と資格取得の奨励 ④ 生徒一人ひとりに寄り添う教育相談体制の充実						
4 自己評価						
評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	
学習指導	わかる喜び・成長の実感を味わえる授業の実践	・朝学（始業前に行う国語・数学・英語についての基礎的問題演習）を週3回実施し、各教科の学習に必要な基礎学力を育む。 ・学力差に対応した授業づくりを工夫し、生徒一人ひとりに対しきめ細かな学習指導を行う。	生徒アンケートにおいて、 4:「社会人として必要とされる基礎的な学力が身についたと感じている」と回答する生徒が8割以上である。 3:「社会人として必要とされる基礎的な学力が身についたと感じている」と回答する生徒が6割以上である。 2:「社会人として必要とされる基礎的な学力が身についたと感じている」と回答する生徒が4割以上である。 1:「社会人として必要とされる基礎的な学力が身についたと感じている」と回答する生徒が4割未満である。	3	・本年度も朝学を週3回実施し、生徒の基礎学力定着に向けて取り組んだ。本年度は昨年度までの一般常識に代え「英語」を導入し英語の基礎学力向上を図った。 ・授業アンケートにおいて、「社会人として必要とされる基礎的な学力が身についたと感じている」との質問に「当てはまる」及び「だいたい当てはまる」と回答した生徒が、全体の70%を越えた。 ・上記質問項目に対し、80%を超えるよう来年度は授業改善や内容の充実を目指す。	
	進路指導	確かな職業観・勤労観の育成	・年間3回実施する進路ガイダンスにおいて、目的が明確であり生徒の実態に応じた内容となるよう、講師との事前打合せを綿密に行う。 ・各ガイダンス後に感想プリント等で生徒の振り返りを実施することで生徒の自己理解を深めるとともに、十分な生徒理解にもとづいた進路指導を推進する。	各ガイダンス後の生徒アンケートにおいて、 4:「職業や勤労に関する理解が深まった」と回答する生徒が8割以上である。 3:「職業や勤労に関する理解が深まった」と回答する生徒が5割以上である。 2:「職業や勤労に関する理解が深まった」と回答する生徒が3割以上である。 1:「職業や勤労に関する理解が深まった」と回答する生徒が3割未満である。	4	・1学期「ハローワークによる説明会」、2学期「卒業生に聞く会」、3学期「山口ごとセンターによるマナー講座」を事前打ち合わせの後、生徒の実態に沿った内容で実施した。各ガイダンスとも生徒に概ね好評であった。理由は、知っておくべき情報ではあるが、それらを知る機会が無いことによるものと考えられる。 ・振り返りの実施がアンケート記入に限られた。今後更に生徒の自己理解を深める工夫が必要である。
	進路決定率100%	・生徒の適性と希望に応じた、進路に関する情報提供を的確に行う。 ・就職サポーターとの連携を十分図りながら、キャリアカウンセリングを行う。	4:進路決定率100%であった。 3:進路決定率80%以上であった。 2:進路決定率60%以上であった。 1:進路決定率60%未満であった。	4	・生徒及び保護者との数度の面談を通じ、希望に応じた進路選択、決定となった。	
生徒指導	規範意識の向上	・「凡事徹底」重点4項目（①挨拶②時間厳守③整理整頓④授業態度）の徹底を図る。	4:生徒は4項目すべて実践ができていた。 3:生徒は3項目が実践できていた。 2:生徒は2項目が実践できていた。 1:生徒は1項目しか実践できなかった。	3	②について、時間を守れない生徒が若干存在するので全て実践できたとは言えない。	
	教育相談の充実による学校不適応の未然防止	・「FiT」等を分析した上で個人面談を実施し、学校不適応の未然防止に努める。	生徒アンケートにおいて、 4:「学校は、生徒の悩みに対し親身になって相談に応じている」に肯定的な回答をする生徒が8割以上である。 3:「学校は、生徒の悩みに対し親身になって相談に応じている」に肯定的な回答をする生徒が6割以上である。 2:「学校は、生徒の悩みに対し親身になって相談に応じている」に肯定的な回答をする生徒が4割以上である。 1:「学校は、生徒の悩みに対し親身になって相談に応じている」に肯定的な回答をする生徒が4割未満である。	4	・全教員が生徒への声掛けを心がけており、生徒の悩みなどに対して親身に相談に応じていると考える。しかし、現実には相談がうまくいかないこともあり、来年度は進路変更者を出さないように努力したい。	
保健体育	規則正しい生活リズムの確立	・授業や全体指導の場を通じて、生活規律の確立の重要性を理解させるとともに、養護教諭との連携を図り、気になる生徒への健康相談を適宜実施する。	生徒アンケートにおいて、 4:「年間通じて規則正しく生活できた」と回答する生徒が8割以上である。 3:「年間通じて規則正しく生活できた」と回答する生徒が6割以上である。 2:「年間通じて規則正しく生活できた」と回答する生徒が4割以上である。 1:「年間通じて規則正しく生活できた」と回答する生徒が4割未満である。	3	・午前中から仕事やアルバイトをする生徒は多いが、概ね規則正しい生活リズムで生活できている。 ・一部の生徒において、夜遅くまで携帯電話等を使用し、昼夜逆転している生徒が見られる。 ・養護教諭とも連携を図りながら、課題のある生徒については全教員で共通理解を図り対応している。	
業務改善	学校の組織等	・次年度からの生徒募集停止及び教員定数減を見込んだ学校行事や校務分掌等の改善の必要性について、教職員の意識を高めると共に、具体的な修正・改善を図る。	4:十分な取組ができた。 3:概ね取組ができた。 2:低調な取組であった。 1:全く取組ができなかった。	3	・次年度からの生徒募集停止及び教員定数減による課題の発見及び学校行事や校務分掌等の具体的な改善に取り組んだ。 ・今後も適切な学校運営を行いながら、新たな課題を発見し、継続的に取り組む必要がある。	
	日常的な業務		4:すべての行事で早めの企画立案がなされ、振り返りも行われた。 3:ほとんどの行事で早めの企画立案がなされ、振り返りも行われた。 2:早めに企画立案がなされ、振り返りが行われた行事はあまりなかった。 1:早めに企画立案がなされ、振り返りが行われた取組はまったくなかった。	3	・ほとんどの行事で早めの企画立案がなされた。 ・生徒会執行部主催の一部行事において、生徒の意見をまとめるのに時間が掛かり、早めの企画立案とならなかった行事もあった。生徒会委員の事前指導の充実を図りたい。 ・振り返りについては、生徒アンケートを速やかに教職員へフィードバックするなど、概ね次年度へ向けた改善点を発見することができた。	
	学校行事等の早めの企画・立案と実施後の振り返りの実施	・学校行事等を時間的な余裕をもって早めに企画立案するとともに、実施後の振り返りを行い、より教育効果が上がるよう改善点を見出す。	4:十分な取組ができた。 3:ほとんどの行事で早めの企画立案がなされ、振り返りも行われた。 2:早めに企画立案がなされ、振り返りが行われた行事はあまりなかった。 1:早めに企画立案がなされ、振り返りが行われた取組はまったくなかった。	3	・ほとんどの行事で早めの企画立案がなされた。 ・生徒会執行部主催の一部行事において、生徒の意見をまとめるのに時間が掛かり、早めの企画立案とならなかった行事もあった。生徒会委員の事前指導の充実を図りたい。 ・振り返りについては、生徒アンケートを速やかに教職員へフィードバックするなど、概ね次年度へ向けた改善点を発見することができた。	
	勤務状況	・年休取得の示唆・奨励や定時出勤・帰宅を積極的に促し、時間外勤務を減らす。	4:時間外勤務の平均が月10時間未満であった。 3:時間外勤務の平均が月20時間未満であった。 2:時間外勤務の平均が月30時間未満であった。 1:時間外勤務の平均が月30時間以上であった。	4	・昨年の時間外勤務時間5時間台を更に減少できるとともに、長期休業中の時差出勤についても全教職員が活用するなど、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取組は加速化している。	
6 学校評価総括（取組の成果と課題） 【学習指導】 週3回の朝学の取組により、生徒の基礎学力の向上に効果があった。授業アンケートを実施し結果を検証することにより各教員が「生徒が理解できる授業」を展開する意識が高まった。 【進路指導】 各ガイダンスともそれなりの成果はあるが、振り返りのあり方も含め、より効果的なものにしていくと考えられる。 【生徒指導】 本年度もこれまでと同様に朝の挨拶運動を全教員で取り組んできた。生徒とのコミュニケーションはかなり取れているが、100%とは行かないのが現実である。少人数の強みを生かした生徒指導が求められる。 【保健体育】 スクールカウンセラーのアドバイスも参考にしながら、組織的な「健康教育」への取組が行われた。今後は保護者との連携により、さらに充実した取組の充実を図る。						
7 次年度への改善策 【学習指導】 来年度も引き続き朝学を実施し、生徒の基礎学力の向上に努める。授業アンケートを実施し生徒の理解度を常にチェックし授業展開に役立てる。 【進路指導】 振り返りの効果的な実施（例：SHRの活用等）や、内容によっては実施時間の延長（45分→70分）により理解を一層深めることなどを検討する。 【生徒指導】 大きな事件や問題行動はなかったが、教育相談の難しさを実感する。学校不適応を起こし進路変更した生徒もいることから、面談等の時間を確保し、生徒の生活指導に臨みたい。 【保健体育】 「定時制だより」や「ほげんだより」の活用により、保護者とも連携した規則正しい生活リズムの確立を図りたい。						

5 学校関係者評価	
学校関係者からの意見・要望等	評価
・基礎学力の定着に向けた朝学等の取組を今後も継続してほしい。 ・授業改善への取組の充実により、少人数の定時制ならではの、一人ひとりを大切に学習指導を今後も実践してほしい。	3
・自分の進路への目的意識をいかに速く持たせるかが大切である。そのため面談やコミュニケーションの取り方に工夫してほしい。 ・現在のアルバイトや仕事での経験も題材として活かしながらキャリア教育を進めてほしい。	4
・生徒はおおむね落ち着いた学校生活を送っているということであるが、時間厳守が守れない生徒がいることは残念である。速やかな改善が見られなくても、生徒一人ひとりの将来に向けて、粘り強く指導を継続してほしい。	3
・アルバイトを経験しながらの通学は大変だと思うが、その苦労を乗り越えてこそ定時制に通う価値が出てくるので、その点を生徒に十分伝えて指導に当たってほしい。 ・夜遅くまでの携帯電話等の使用については定時制生徒に限った課題では無いと思う。関係機関とも連携を取りながら解決に向けて努力をお願いする。	3
・学校行事等の見直し削減により、学校全体が尻すぼみすることが無いように改善をお願いする。 ・在校生が下宿生として自信と誇りを持って卒業できるよう、引き続き先生方の支援をお願いする。 ・安心安全な学校運営には、先生方の健康が第一である。夜間の勤務でもあるので、今後も体調管理には十分配慮をお願いする。	3